

----- 自 己 紹 介 -----

数学教室 瀬野 裕美



平成4年2月1日付けで理学部の留学生担当専門教官として講師になりました。

山口県岩国市に生まれ、岩国高校理科、河合塾広島校（第一期生）、京都大学理学部（卒業は数学系／非線形力学）、同大学院生物物理学専攻理論生物学講座（数

理生物学；Mathematical Biology）と流れ、京都大学大学院D2（1987）の時、経団連の石坂奨学金に受かり、イタリアはナポリ大学の「数学およびその応用」教室に2年間留学しました。

そのナポリの生活の中で出会った東洋人は数えるほどでした。町の中に埋もれて生活する分には、英語も（もちろん、日本語も）役立たず、イタリア語とイタリア人、そして、パスタ、パンに包まれた生活でした。その環境の2年間は語り尽くせないほど多くのことを感じ、思わせてくれましたが、そのなかに、民族や文化の違いから来る不和感についての問題があります。質的にオーバーな不和感は、しばしば、留学生問題を引き起こしている原因となっているのではないかという問題意識です。今

は、そんな意識を持ちつつ、留学生担当専門教官として広島大学理学部の留学生の留学生活がより充実したものになるようなお手伝いできればよいと考えています。

さて、私は、大学時代は、3回生までは物理系で、加速器実験などもやっていたし、もともと理論物理学をやりたかったのですが、大学で色々と感じていくうちに、「理論物理学」より応用数学、生物数学、数理生物学のほうへ惹かれていき、その結果、現在は、環境の不均質性がどのような影響を個体群動態に与えるのかを興味の中心に添えて、数理生物学の片隅でのっほほんとやらせてもらっています。自己紹介もかねて、興味をもって取り組んでいる具体的な研究テーマのいくつかを並べてみるとコロニー（村）形成による個体群の分布拡大のダイナミクス；レックのダイナミクス；魚の群れのダイナミクス；個体群の群れの分裂や融合のダイナミクス；種の多様性構築のダイナミクス、etc.これらについての数理モデルを介して、自然現象を考察したいと思っています。数理生物学の研究は、しばしば、数学者、生物学者の双方から、「数学ではない」、「生物学ではない」と評されるようなものですし、数学教室の方々にとっては、そのような研究をやっている私をどう取り扱っていいのか惑われた（惑ってられる？）のではないかと、思いますが、快く一員として迎えてくださり、心から感謝しております。私にとって、理学部の諸分野の方々との交流が最高の研究環境です。あちこちの教室に出没するかと思いますが、よろしく願いいたします。

かがらの生活を始めて一ヶ月が過ぎましたが、鳥の声に眼を覚まし、蛙の声を子守歌に、といった環境に安堵感を覚える毎日です。